

平成22年度
地域子育て創生事業報告書

街と川面と子どもと舟と



鶴岡舟番所

目 次

鶴岡舟番所とは.....	3
なぜ内川でこそだてなのか.....	4
これまでの取り組み.....	5
内川とは・・・	6
内川に架かる橋など.....	7
事業の様子	
親子ふれあい舟下り.....	8
ごみ拾い.....	10
水質調査.....	11
生き物さがし.....	13
さかなしめ.....	14
内川を活用した地域活性化.....	16
アンケートから見えるもの.....	17
参加者の声.....	21
新聞記事.....	22

鶴岡舟番所とは

わたしたちは、住民主体で鶴岡市街地を流れる内川流域の環境保全や地域活性化を図るため、和舟を管理・運営する「鶴岡舟番所」を設立し、歴史的・文化的な資源の発掘と、地域のまちづくりに資する事業展開を図っています。

内川も近年では、オハグロトンボが一面に飛びかい、鮎や鮭も遡上するまで水質も改善し、親水空間として良好な河川としての評価が高まっています。特に親水空間として整備された内川ほとりパークや、川端通りの桜並木とそこに柳が点在する様は、鶴岡を代表する景観として位置付けられています。

川に舟があり、そこに人がいることで川がよみがえり、内川も少しずつ本来の「活きた川」になりつつあります。流域の良好な環境を保全しながら和舟でのゴミ拾いや『海坂の小祭り』などのイベント開催を通じて、子どもたちへの学習の場やいろいろな世代との交流を図りながら、地域ぐるみで子どもを育てていき、また、子どもたちだけでなく、地域住民が川の文化的価値を高め、市民自らが川を保全し活用していくことを目指しております。



舟で子育て 内川たんそく

鶴岡舟番所では、平成21～22年度地域子育て創生事業の採択を受け、保育施設や児童館等での子育て支援とは別の視点で、歴史ストーリーが溢れる内川と和舟を活用した体験を通じて、子ども達の社会性や協調性を育みながら、親子の絆を深めることを目的にしております。

和舟を活用した子育ては、庄内地域で初めて実施するものであり、和舟を使用した環境保全や地域の歴史を学び、子ども同士が共同で何かをやり遂げるといった体験ができる新たな取り組みであるともいえます。



平成21年4月まで「海坂の桜小祭り」などで使用していた舟（写真）です。個人所有のものを使用していましたが、老朽化や使用日の制限もあるため、新たに舟を製作することにしました。



江戸時代、舟運の担い手は「小鵜飼船」と、それよりひと回り大きいひらた舟でした。最上川を往来した小鵜飼船と呼ばれる帆掛け船を建造したことのある県内で唯一の船大工である、大石田町の木村雄一（写真）さんに製作して頂きました。



鶴岡市の温海杉を使用し、平成21年5月に完成。11月に進水式を行い、安全な運行と事業の発展を祈願しました。これまでの舟よりも幅が広く安定しており、ゆったりとした気分で乗船することができます。

鶴岡舟番所は、子育てや環境保全、各種イベントに力を入れ、川を保全し活用していきます。

なぜ内川でこそだてなのか

最近の子どもたちを取り巻く環境は、家族が各自好きなものを好きな時間に食べる、一家団欒の時間が不足しているなど、家族との会話が希薄化しつつあると言われています。また核家族化の進行で、共働き世帯が39.4%で、山形県は全国で第2位（総務省統計局 『社会・人口統計体系』 - 2008-）と高くなっています。

そのため、親子で一緒に遊ぶ機会が持てないなど共同体験が不足しているのではと思われ、また、友達や年齢の違う子どもたちと集団で遊ぶ機会や他人との関わりによって得られる社会性や集団の遊びから得られる、貴重な体験の場が減少していると考えています。

鶴岡舟番所では、保育施設や児童館等での子育て支援の別の視点で、歴史ストーリーが溢れる内川周辺で、和舟を活用した体験を通して、子どもたちの社会性や協調性を育みたいと思っています。また自分たちの住むまちへの関心や愛着、行動する力を生み出せるよう、子育て支援を通し親子の絆を深めてもらうように活動してきました。

この和舟を活用した子育ては、庄内地域で初めて実施し、環境保全や地域の歴史を学び、親や子ども同士が共同で何かをやり遂げるといった体験ができる新たな取り組みであると考えて、以下の事業を展開してきました。

- ・親子ふれあい舟下り
- ・自然環境の美化・保護活動
- ・生物調査
- ・水質調査

を行ってきました。

舟という限られた空間と水面という非日常の視点に置かれることで、共同体験や、環境保全学習、川に関連した歴史などを学び、地域への愛着心が育まれることを期待しています。また、積極的に情報発信を行い、子育て支援団体や教育委員会などが行う子育て支援事業に新たな活動を提供できると考えています。



これまでの取り組み

平成21年

- 11月11日 鶴岡舟番所 設立総会
- 11月18日 H21年度地域子育て創生事業(山形県安心子ども基金特別対策事業)に、内川探検親子ふれあい事業が採択される

平成22年

- 1月9日 「親子ふれあい舟下り」 於:内川ほっとパーク21名参加
- 1月10日 「内川の自然かんさつをしよう」 於:内川ほっとパーク12名参加
和舟2艘を大泉橋下に陸揚げ
船頭養成講座を行い、2名が参加
- 2月6日 「芭蕉と長山邸跡地を考える」講座の開催
於:山王日枝神社 19名参加
- 2月20日 「自分たちでイベントを作ろう」
- 2月27日 「内川と橋を知ろう」講座の開催 於:山王 月の山 13名参加
- 3月6日 「自分たちでイベントを作ろう」中止
- 3月18日 H22年度(財)河川環境管理財団 河川整備基金 新設市民団体運営支援助成に採択される
- 3月21日 「親子ふれあい舟下り」悪天候のため翌日に延期
- 3月22日 「親子ふれあい舟下り」と「内川の自然かんさつをしよう」同時開催
於:内川ほっとパーク 26名参加

平成22年

- 4月24～25日 第7回海坂の桜小祭り 約200名参加
- 5月2日 親子ふれあい舟下り 17名(親5名、子12名)
- 5月5日 親子ふれあい舟下り 22名(親10名、子12名)
- 5月16日 鶴岡子ども祭り
親子ふれあい舟下り 82名(親40名、子42名)
- 5月22日 親子ふれあい舟下り 19名(親8名、子11名)
- 6月5日 親子ふれあい舟下り 13名(親6名、子7名)
- 6月10日 鶴岡商工会議所観光部会「自分のまちを語る事業」
- 6月12日 内川の水質調査 7名(親3名、子4名)
- 6月13日 内川の生き物さがし 8名(親4名、子4名)
- 6月19日 親子ふれあい舟下り 31名(親4名、子19名、付添8名)
鶴岡市第二学区コミセン 生涯学習
- 7月3日 親子ふれあい舟下り 17名(親6名、子11名)
- 7月17日 親子ふれあい舟下り 25名(親10名、子15名)
内川のごみ拾いを同時開催(7月10日を延期)
- 7月18日 第7回海坂の芭蕉小祭り開催 30名参加
- 7月31日 内川のさかなしめ 21名(親8名、子13名)
- 8月7日 親子ふれあい舟下り 10名(親4名、子6名)
- 8月8日 内川のさかなしめ 19名(親10名、子9名)
- 8月11日 内川を美しくする会「内川舟下り探検隊」
- 8月21日 親子ふれあい舟下り 13名(親5名、子8名)
山形大学エコキャンパス推進委員会「ナイトキャンドル」
- 8月28日 内川の水質調査 17名(親6名、子11名)
- 9月4日 親子ふれあい舟下り 12名(親5名、子7名)
- 9月11日 内川のごみ拾い 2名(親2名)
- 9月18日 親子ふれあい舟下り 7名(親4名、子3名)
- 9月28日 鶴岡市温海コミセン「鶴岡の歴史散歩」事業
- 10月2日 親子ふれあい舟下り 10名(親5名、子5名)
- 10月9日 内川の水質調査 8名(親5名、子3名)
- 10月10日 内川の生き物さがし 7名(親4名、子3名)
- 11月6日 親子ふれあい舟下り 5名(親1名、子4名)
- 11月13日 内川のごみ拾い 18名(鶴岡高専学生18名)
- 11月20日 親子ふれあい舟下り 11名(親3名、子8名)
- 12月4日 内川の水質調査 7名(親4名、子3名)
- 12月5日 内川の生き物さがし 14名(親6名、子8名)

内川とは

赤川は山形～新潟県境の朝日山系以東岳（いとうだけ）を源とし、大鳥池を経て溪谷を流れる「大鳥川」と、梵字川の2つの大きな支流が朝日村で合流し、庄内平野を流れ、内川、青龍寺川、大山川等の支流と合流し、日本海へ注ぐ延長70.4km、流域面積856.7km²の一級河川です。



その支流の一つが内川です。青龍寺川から分かれ、南北に約13kmの長さで、その流域面積は約30km²になります。

内川は、古くは鶴岡城を守るため、防御としての外堀として天然の要塞としたものです。かつては芭蕉も訪れ利用したりと、人々の生活の場として切っても切れない大切な川です。

また親水空間として「内川ほっとパーク」や川端通りには桜並木が整備され、そこに柳が点在する様は、城下町鶴岡を代表する景観となっております。



内川に架かる橋など



大泉橋

大泉橋は大正10年の水害時に流木がメガネ状の橋脚にひっかかり洪水のさわぎを大きくした。昭和6年に現在の橋に架け替えられたそうです。このたもには、松尾芭蕉乗船の地としても有名です。



禅中橋



文政3年(1820年)、禅中和尚が渡し舟だったことをふびんに思い、托鉢で資金をつくり架けられた橋です。橋のたもには石碑がありいつもきれいな花が供えられています。



合流地点

内川と谷田川の合流地点

三雪橋



鶴岡を代表する朱塗りの橋で、この橋からながめる鳥海山、月山、金峰山の3つの山の雪が、とても美しかったことから、明治9年に、県令三島通庸が名づけたそうです。この橋の歴史は古く慶長13年(1608年)、城の大手門に通じる橋として、内川に初めてかけられた橋で、時の領主最上義光が作ったものと言われています。

(※ 鶴岡市観光連盟ホームページより抜粋)

取水口



親子ふれあい舟下り



共働き世代が増え、家族だんらんの時間が減っています。テレビゲームの普及によって、外で親子が遊ぶ機会も減少し、コミュニケーションが不足しています。

そこで、ゆったりと流れる内川と和舟を活用して、「親子ふれあい舟下り」をおこなってきました。

水面から見る景色は、陸上では経験できないもので、違った視点でまちをみることができます。

この舟下りで、親子のコミュニケーションの増加を期待しています

親子ふれあい舟下り



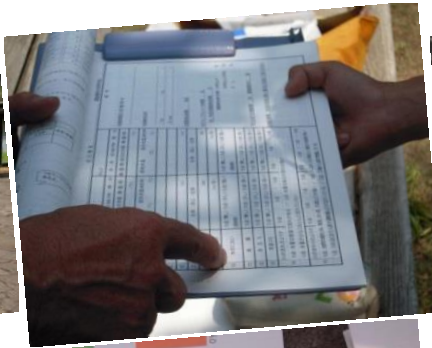
ごみ拾い



親子で、自然や環境の大切さを
知っていただくため、内川の中に入り、
ごみ拾いを行いました。

川の中でごみ拾いをするのは少ない
ようですが。鶴岡舟番所は、和舟を使っ
て、川底のごみも拾って河川の美化に
努めています。空き缶や家庭で出る
ゴミが多いため、一人一人が気を付
ければごみが少なくなります。

水質調査



内川の自然環境を親子で学習していただく
と、水質調査を行いました。何年も継続
しているお子さんのほかに、初めて実験するお
子さんもいて、わかりやすく実験しました。
水質を調査する試薬で、内川の上流から下
流までの水を検査し、どこから、どのくらい
汚れているのかを調べました。
CODなど聞きなれない言葉に、親子とも
戸惑いながらも、試薬の色でどのくらい汚れ
ているかを知ってもらい、見て遊んで試して
学べる機会になったと思います。今後も継続
して活動していきます。



水質調査の結果

平成22年6月12日

調査地点		内川上流(箆橋)	内川中流(鶴園橋)	内川下流
天候		晴れ	晴れ	—
気温	°C	24.5	25.5	—
水温	°C	20.9	20.9	—
透視度	cm	不明	35	—
水の色		透明	透明	—
流れの速さ	m/秒	—	0.5	—
水のおい		なし	なし	—
油膜		なし	なし	—
泡立ち		なし	なし	—
パ ツ ク テ ス ト	pH	6.5	7	—
	COD	—	8<	—
	アンモニウム性窒素	0.2	0.2	—
	亜硝酸性窒素	0.05	0.005	—
	硝酸性窒素	1	0.15	—
	リン酸性リン	0.1	0.5	—

平成22年8月28日

調査地点		内川上流(外内島)	内川中流(鶴園橋)	内川下流(赤滝付近)
天候		晴れ	晴れ	貼れ
気温	°C	28	32.5	30.5
水温	°C	21.5	24	24
透視度	cm	82	95	70.5
水の色		透明	透明	透明
流れの速さ	m/秒	—	0.3	—
水のおい		なし	なし	なし
油膜		なし	なし	なし
泡立ち		なし	なし	なし
パ ツ ク テ ス ト	pH	6.75	7	6.5
	COD	5	16	18
	アンモニウム性窒素	0.5	0.2	0.8
	亜硝酸性窒素	0.005	0.05	0.02
	硝酸性窒素	1	1	2
	リン酸性リン	0.05	0.2	0.1

平成22年10月9日

調査地点		内川上流(箆橋)	内川中流(鶴園橋)	内川下流(赤滝付近)
天候		くもり	くもり	くもり
気温	°C	19.5	19.5	19.5
水温	°C	18.5	18	18
透視度	cm	不明	不明	不明
水の色		透明	透明	透明
流れの速さ	m/秒	—	—	—
水のおい		なし	なし	なし
油膜		なし	なし	なし
泡立ち		なし	なし	なし
パ ツ ク テ ス ト	pH	6.75	7	6.5
	COD	5	16	18
	アンモニウム性窒素	0.5	0.2	0.8
	亜硝酸性窒素	0.005	0.05	0.02
	硝酸性窒素	1	1	2
	リン酸性リン	0.05	0.2	0.1

平成22年12月4日

調査地点		内川上流(箆橋)	内川中流(鶴園橋)	内川下流(赤滝付近)
天候		くもり	くもり	くもり
気温	°C	6.5	6.5	6.5
水温	°C	5.5	5.5	5
透視度	cm	不明	不明	不明
水の色		透明	透明	透明
流れの速さ	m/秒	—	—	—
水のおい		なし	なし	なし
油膜		なし	なし	なし
泡立ち		なし	なし	なし
パ ツ ク テ ス ト	pH	6.75	7	6.5
	COD	5	16	18
	アンモニウム性窒素	0.5	0.2	0.8
	亜硝酸性窒素	0.005	0.05	0.02
	硝酸性窒素	1	1	2
	リン酸性リン	0.05	0.2	0.1

生き物をさがし



内川にはどんないきものがあるんだろう。川の中に入ったことのない子どもたち…。親子で生き物を探しました。

どんなに服を汚しても、お母さんやお父さんが笑顔で見守って、ほほえましい光景となりました。

お兄さんや他のお父さんから、「コツ」を教えてもらいながら、徐々にいろんな生きものを見つける子どもたち。

ナマズや時には金魚も発見！ いろんな生き物が内川には棲んでいるんです。

さかなしめ



内川は「汚れた川」というイメージが根強く残っており、川遊びというイメージはありませんでした。しかし、県の絶滅危惧種のイバラトミヨが見つかり、徐々に水質が改善されています。この「さかなしめ」の中で、同じ絶滅危惧種の「ホトケドジョウ」を運よく発見でき、市民に「きれいな川」になったことを伝えることができました。この発見を機に、内川周辺の環境を保全する動きが出てきております。

とかなしめ



内川を活用した地域活性化



鶴岡の情緒あふれる風景や伝統を活かした祭りの創出を目的に『海坂の桜小祭り』『海坂の芭蕉小祭り』開催。この祭りから地域の活性化を考えています。



「内川探索親子ふれあい事業」の実施に当たって、参加者よりアンケートを記入していただいております。アンケートへご記入のあった内容をまとめると大きく6つのジャンルに分類されました。

1、学習の場としての役割

普段、何気なく目にしている内川の中に入り、自然と向き合うことによって新しい発見と魅力を体感できると確信しました。親をはじめ子どもたちは、「初めて川に入った」といった声が大変多く、身近な存在の川の中に棲む生物を遊びながら学び、地域に眠っている資源を学習することができました。この体験を基に、家族で歴史や文化、環境を保全することなど考えてもらえる機会になれば、と願っています。

また、水面にある舟という限られた空間では、自ずと家族以外の他の参加者やスタッフと交流することで、自制や協調性が育まれています。

2、陸上と水面から景観の違い

水上から「まち」を見てみると、今まで見たことのない新鮮な景観を眺めることができます。この「まち」を子どもに置き換えた場合、視点を変えるだけで子どもたちの短所が長所だったり、親の凝り固まっていた考えに気づき、子育ての悩みが解消することができるかと信じてます。

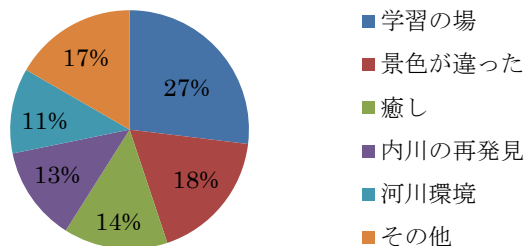
またこの体験を通し、水辺空間の魅力を再認識することで、自分達が住むまちへの関心・愛着や、将来のまちづくりを考えるなど、多方面で行動する力を育むことができると考えています。

3、癒し空間として

育児をした経験のある方なら、誰も育児に対するストレスを感じたことがあると思います。子育て中のお母さんたちが感じるストレスには、

- ・ 育児や家事の全てを背負っているという不満や責任
- ・ 理想の親になろうとする重圧感
- ・ 社会から取り残されているような焦燥感
- ・ 悩みを忙しい夫に相談できない孤立感
- ・ 子育てへの不安感
- ・ 子供が思い通りにならないことへの苛立ち
- ・ 子供をすぐに叱ってしまう自分への自己嫌悪
- ・ 夫や子供を優先し、結果後回しにした自分を見失ってしまうこと

アンケート回答結果



- ・自分の時間が持てないこと
- ・環境や自分の役割変化の影響
- ・育児、家事による睡眠不足や疲労
- ・ホルモンバランスの崩れ

のような、要因があると考えています。このストレスの回避する対処法に「気持ちのリフレッシュ」があると思います。

この舟下りでは、雑踏する現代社会に反し、非常にゆったりとした気分になれることによって、親子ともにリフレッシュすることができ、子どもと向き合えることができると思います。子育てには、このリフレッシュすることが大変重要で、今回参加していただいた方からも、その場で「ゆったりとした気分になりリフレッシュできた」と実感された方が多くいました。

4、内川の再発見

「まさか、内川に入って遊べるとは思っていなかった」と声がありました。この「まさか」は子育て中の家庭でも、「まさか家の子が…」「家の子に限って…」などよく聞くフレーズです。これらは、表面上からの判断でしかなく、実は内面をよく見ていないのではないかと思います。この内川での「まさか」の再発見を機に、我が子に対して一歩踏み込んで接することで、本当の子どもたちの姿を見出せることを願っています。

5、河川環境の保全

当団体は、鶴岡市街地を流れる内川で活動しています。残念なことに、この内川は、都市化の進行に伴う水質の悪化や、河川管理上のからくる流量の減少が顕在化し、1950年頃から一部でヘドロ臭など悪臭がしていたと言われていました。

近年では、川沿いの下水道が整備され少しずつ水質改善が図られおり、2007年には環境省のレッドリストで、近い将来絶滅する危険性の高い「絶滅危惧 IB 類」に分類されているイバラトミヨが、更には今年8月にホトケドジョウが発見されています（別添記事参照）。更には、鮎や鮭が遡上するようになっています。

この絶滅危惧種の魚が発見されているにも関わらず、依然として「内川は汚れた川」というイメージが根強く残っているため、ゴミが散乱しており、貴重な生物にも悪影響を及ぼしかねません。この活動を通し、親子で内川の状態を認識してもらい、河川環境の保全の大切さを学習していただいたと確信しています。

アンケートの声を抜粋

舟から見た鶴岡の中心地が違った景色で、新鮮だった
橋の下が面白かった。橋の下を見るのが初めてだったので、こどもがすごよろこんでいた
川をもっとキレイにして魚が帰ってきてほしい
のんびりできて、内川がどこら辺を流れているかわかって面白かった。
子どもは水の中を夢中で見ていました。こんなに近くで川の中を見る機会はそうないのでとても貴重な体験になりました
初めて舟に乗せましたが、楽しそうに乗っていたので私も楽しめました。
親子でゆっくりと気持ちのよい時間を過ごせた
はじめは怖がって固まっていたのですが、後半になると慣れてきて楽しそうに乗っていました
子どもの自由研究の参考にと参加させていただきましたが、親子ともにとっても勉強になったうえ、今まで気がつかなかった点もわかり、すごく充実した時間を過ごせた
アブラハヤとか捕れてよかった。水の中に入るのが楽しかったヨ。ころんじやったけど、魚を自分の手で触れてぬるぬるした感触が気持ちよかったヨ
普段素通りする内川の面白さ、川の流れ、生き物、風を感じ、建物や家などもじっくり見られ新しい発見、舟下りの楽しさを実感できました
子どもたちは最初緊張していましたが、すぐリラックスして笑顔満点でした
モーターのない舟でとても静かでよかった
こども船頭もさせてもらいとても良い経験でした。下りは簡単だったけど、上りは難しかった
思っていたよりも川はキレイだった
川に胸まで入るといのはなかなかできない経験なので楽しかった
長男（小学3年）は川に入り、魚を捕まえとても喜んでいました
内川に入るなんて驚きでした。初めての体験でとてもよかった
小学生の娘は川に入って本当に楽しそうだった。妹は小さな魚がたくさんで手に取ったりしてとても喜んでいました
色々な魚（大小）を見て喜んでいました。バケツに手をつっこんで魚をさわって、魚が弱りようでちょっとハラハラでした
川風が涼しくトンボや川の中の藻など発見も楽しかった
思ったより川がきれいでしたが、少しゴミがあり残念でした
初めての「ざっこしめ」で喜んで最後まで網を離さなかった
親子共に楽しむことができました。内川にも色々な魚がいることがわかってすごく楽しめました
船頭さんとの会話もとってもたのしかったです。子どもも飽きずに乗せていただきました

初めての川あそびでとてもたのしそうでした
ナマズ、鮎をもっと増やしたい。キレイな川作りをみんなでやりたい
もっとキレイな川にしてみんなが泳げる内川に
まさかの川でスイスイと泳いでいて楽しそうでした
まさか川に入って遊べるとは思ってなくてとても楽しそうでした
川に入ることができて子どもがとても喜んだ。鶴岡で現代で川遊びができるとは感激
川の水に手を入れ魚がいることに喜んでいたようでした。川が意外ときれいで水辺の生物も見られて楽しかったです



<これまで事業をおこなってきて>

この事業では、親子ふれあい舟下りや、環境を考えるとごみ拾いや水質調査、生き物さがし、さかなしめを展開しています。共通していることは、いろいろな世代の方たちと交流することで、各世代一体型の交流が図られていると思います。服が水に濡れつつも、無心で水に触れる子どもと温かく見守るお母さん。子どもと一緒に川に入って真剣に触れ合うお父さん。学校や幼稚園・保育園では見せない子どもの姿など、舟を通して親子のふれあいが生まれ、またコミュニケーションの増加が図られていると願っています。

久しぶりに親子でゆっくり外遊びができました
街中の川なので あまり生き物は期待していませんでした と
ところが水は透明で 小さな魚がたくさん泳いでいるのが見えま
した ゆったり進む身と競争するかのよな小魚達 大き目の
ものを見つけては あれが大きい こっちがもっと大きいと
私も子どもと一緒ににはしゃいでしまいました

水面には鴨の群れ 残念ながら身が近づくとつれ遠ざかり
近くで見ることにはできませんでしたが 飛びたつ鴨に思わず手
を振っていました かもさんなんて言いながら笑
いつもとは違う目線で見ると街もまた新鮮 橋は水面から見上げ
ると全く違う表情を見せてくれます 初めて気づいた川沿いの
店もいくつか

そして家の上には青い空 すいぶん長い間忘れていた感覚
でした

子どもが小学生までは 休日に山や海へ遊びに行っていました
が 学年が上がるにつれ習い事や又ボ ツ少年団で忙しく
なり 最近ほとんど外へ遊びに行っていない 特に目的が
なくても 一緒に山へ登ったり川を眺めたり海で貝を拾ったり
するだけで ゆったりした気持ちになり 子どもへの優しい気
持ちと愛おしさがこみ上げてくるよりに感じたことを思い出
しました

子どもも間もなく思春期 一緒に遊んでくれるのも今のうち
です 散歩でもいいので もっと親子で出かけようと決心しま
した

気づかせてくれた内川探検に感謝

参加者の声

酒田市在中
松本さん



いたっ・ホトケドジョウ



①内川で見つかった絶滅危惧種のホトケドジョウ(鶴岡舟番所提供) ②ホトケドジョウが見つかった内川。奥に見えるのが柳橋

鶴岡市

8日の生物調査イベント「東京の親子捕獲」

きれいな内川(鶴岡) また証明

鶴岡市の中心部を流れる内川で、近い将来、絶滅する危険性が高いとして環境省のレッドリストで「絶滅危惧(きん)ⅠB類」に分類されているホトケドジョウが見つかった。澄んだ沢水が流れ込むような環境でしか生息できないとされるドジョウで、関係者は「市街地の河川で見つかることは珍しい。内川の水質がかなり改善されてきたのでは」と喜んでいる。

東京の親子捕獲

見つかったのは8日、市中心部の「柳橋」と「鶴岡橋」の間付近。内川で舟下りなどを主催する08年に52年ぶりにそれぞ同市の「鶴岡舟番所」(渡り確認されている。県支部正代表理事)が行った水生生物の調査イベントで、備中に参加した東京都板橋区赤塚2丁目、音楽アロテューサ1田中広美さん、拳君(6)親子が川べりから1999年度が水1.5kgだった網に、体長3.8kgだったのどが、2009年度は0.9kgまで減少。公共下水道の整備、普及などで川漁業協同組合理事の野喜吉さん(60)が、体の特徴などからホトケドジョウと確認した。

中野さんは「汚れてい内川の発見で、とてもうれし。これを機に市民も「絶滅危惧ⅠB類」に分類されている。体長7、8が内川により関心をもち、ドジョウでは小型、頭が平べったく、体に黒い斑点と4対のひげがあるのが特徴。県みどり自然課によると、わき水や伏流水などの清水で生息するというのが近年、姿を消しつつあるという。

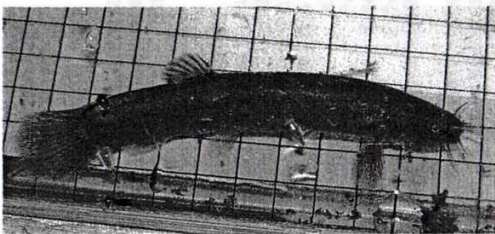
現在、ホトケドジョウは中野さんが自宅で飼育しており、数日後には内川に戻す予定だ。内川付近ではいずれも水のきれいな環境にすむイバラトミヨが2007年に64年ぶりに、ハグロトミヨが08年に52年ぶりにそれぞれ確認されている。県支部正代表理事)が行った水生生物の調査イベントで、備中に参加した東京都板橋区赤塚2丁目、音楽アロテューサ1田中広美さん、拳君(6)親子が川べりから1999年度が水1.5kgだった網に、体長3.8kgだったのどが、2009年度は0.9kgまで減少。公共下水道の整備、普及などで川漁業協同組合理事の野喜吉さん(60)が、体の特徴などからホトケドジョウと確認した。

内川 水質向上のシンボル!?

見つけたホトケドジョウ



ホトケドジョウを捕まえた田中さん親子



内川の柳橋近くで見つかったホトケドジョウ

市街地に絶滅危惧種

鶴岡舟番所 参加親子捕まえる

「さかなしめ」は、内川を活用した地域活性化や環境保全活動を展開している同舟番所が内川探索親子ふれあい事業の一環で、県の助成を受けて実施。7組計15人の親子が参加し、川に入ってヨシが茂る川岸にタコ網を差し込みながら魚釣りを楽しんだ。

ホトケドジョウは、東京から鶴岡市陽光町の実家に帰省して参加した田中広美さん(59)と息子の拳君(6)が捕まえた。体長約5.5cm。

「思えばドジョウを捕まえたとき、すごく驚いて喜んでた。珍しいドジョウと聞き、感激した」と話した。

内川の魚類に詳しい中野さんは「数年前には内川で、清流にすむイバラトミヨが見られた。サケも上り、三雪橋の近くではアユも見られ、内川の水質は以前に比べ格段に良くなった。きれいになった内川に市民からもっと関心を持ってもらえればうれしい」と話している。

- … 鶴岡舟番所(渡部正代表理事)主催の「さかなしめ」
- … が8日、鶴岡市の柳橋、鶴岡橋間の内川で行われ、環境省
- … のレッドデータブックで絶滅危惧種となっているホトケド
- … ジョウが一匹見つかった。関係者は「市街地を流れる内川
- … で確認されたのは極めて珍しい。水質が向上している証し
- … では」と話している。



庄内総合支庁河川砂防課、鶴岡市、庄内赤川土地改良区の協力で開催しました。

平成22年度 地域子育て創生事業報告書

発行年月日 2011年3月31日

編集・発行 鶴岡舟番所

住 所 〒997-0028 山形県鶴岡市山王町9-29

連絡先 電話 (0235) 25-6320 FAX(0235) 25-6320

E - m a i l k-tsuruoka@if-n.ne.jp

印 刷 (有) アート写真印刷
山形県鶴岡市美咲町17-13

